

【弥生3月 春の訪れ From Kobe】3月 須磨の春 春の訪れのしあわせ

収録1. その輝きを取り戻せ日本ポストコロナへ 危機感が垣間見える

収録2. 最近の新聞より コロナ禍の中で露呈した硬直化した日本が見えてきた これでよいのか？



春の訪れ 陽光にキラキラ光る須磨の海 2021.2.16.



2021 弥生3月 春の訪れ きらきら光る須磨の海 心配されたいかなご新子漁も始まった  
梅の花・菜の花 そして サクラソウ 野鳥たちも訪れ、華やぐ春に  
マスクをはずして戸外へとびだした～い  
丘一面を黄色に染める菜の花は一遍にみんなを明るくする 春の幸せ



なんとなくほっとして 気持ちを明るくしてくれる 春到来のぬくもりです



コロナ禍が始まって一年余りやっと終息の兆し みんながよく頑張った証 でも もう少しがんばらねば・・・  
青い空にキラキラ光る海 丘一面を黄色に染める菜の花の運動公園では開幕を告げる  
ラグビー子供たちや歓声が風に乗って聞こえてくる ]

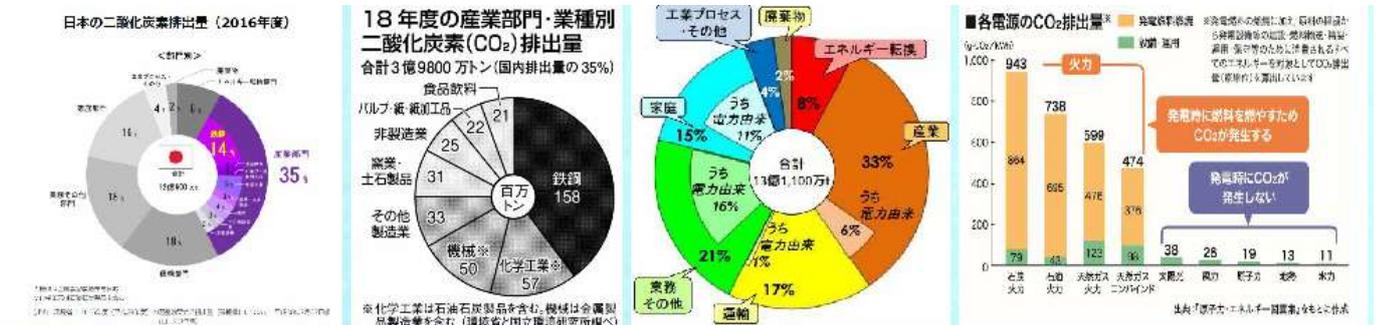
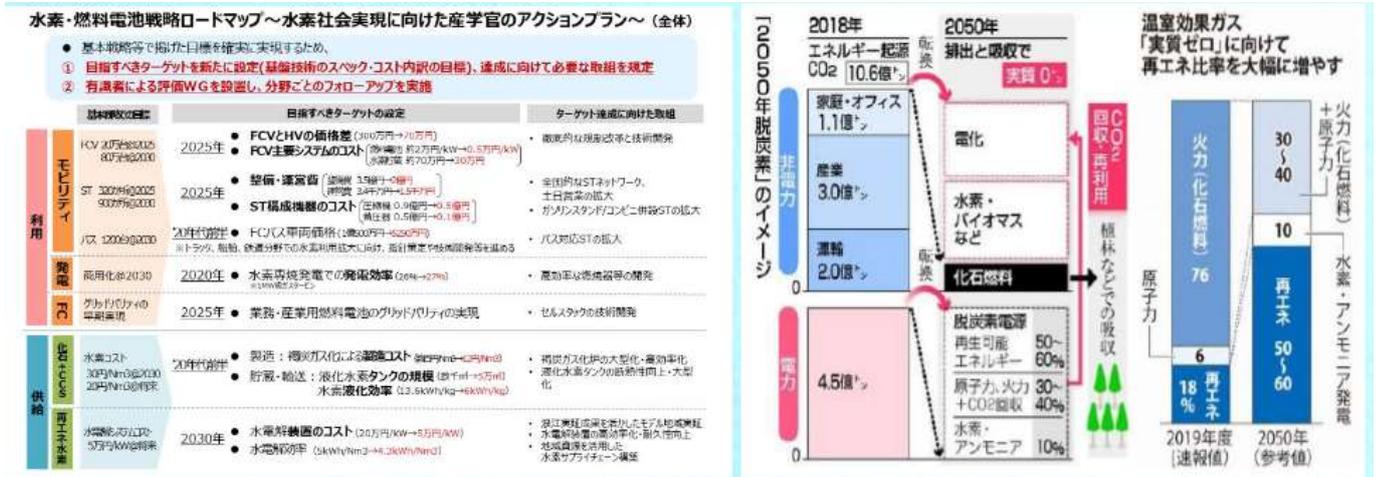
不漁と言われた今年のいかなご新子漁も無事始まって西神戸に春  
浮かれてはいられないが、西神戸にうれしい春の到来

もうお雛さん済んで、梅・菜の花からサクラへ 気は焦れども頭廻らず 遅れに遅れた春便りです  
コロナ終息 新しい時代への希望・期待 みんな笑顔がとりもどせますよう 今一度スクラム組んで

God be with You !! 2021.3.10. From Kobe Mutsu Nakanishi

収録 1. その輝きを取り戻せ日本ポストコロナへ 危機感が垣間見える  
 脱炭素社会へ向けて、企業が一斉に水素燃料・脱CO2 排出に舵を切る  
 日本人の賃金は韓国よりも低いという侮らざる現実  
 この10年全く平均賃金が上がっていないのは日本のみ  
 数字で知ってびっくり。ぬるま湯日本のつけか？

2050年脱炭素カーボンニュートラル 全体のアクションロードマップ



2050年脱炭素カーボンニュートラルを宣言した政府。一機に日本も脱炭素社会に向けての動きが活発になった。コロナ禍の中で、日本の弱体化が嫌というほど見えて、その立て直しには新しい産業の創生が待たなしの事情もある。でも またそろ政治家の人気取り丸投げ政策の花火に終わるかもしれぬと。

カーボンニュートラル宣言目標の2050年。  
 初めて2050年カーボンニュートラルへ向けての数値目標付きロードマップがある取り組みが提示されてはいるが、それを達成する技術イノベーションのロードマップはどうなのだろうか…。  
 個々の分野技術イノベーションの積み上げロードマップと全体とが有機的に結びついているのだろうか…。  
 またそろそこのところが有識者会議だの専門家会議など一番の推進力の頂点 統率力を発揮すべき政府の関与の仕方があまいに。官僚たちがキャストイングボートを確保する知恵なのでしょか…。  
 それが一番日本の政治をダメにしているに見えるのですが……。

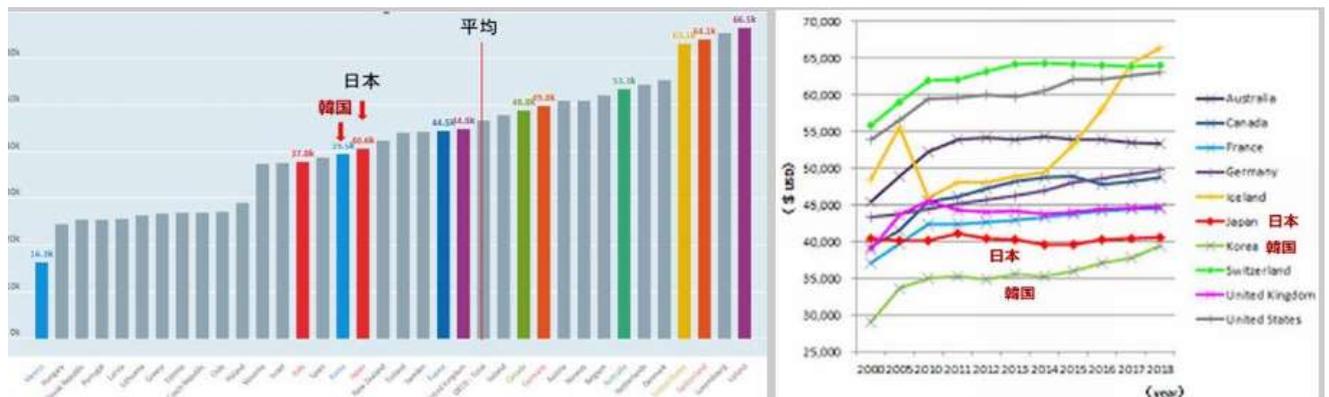
新しい技術イノベーションを明確にし、目標達成へ大きな展開過程へステップアップしてゆく記述がよく見えない。いつものごとく、仲間内ではあるのかもしれませんが…絵に描いた餅になりかねない。

カーボンニュートラル達成のための主要技術14項目各ロードマップの実行指揮官も明確でない。  
 実行推進指揮官が政治家ではどうにもならぬ。政治家と対等に立ち回る実行部隊  
 モノづくりイノベーションを武器にあの「はやぶさ」プロジェクトに見られた流れにいつステップアップできるのだろうか…。  
 楽しみでもあり、開発プロジェクトのだいで味  
 応援したいと切に思う。

## ぬるま湯日本のつけ？ すでに日本は富んだ国ではない 日本人の賃金は韓国よりも低い

日本の現状は極めて厳しく、この課題取組によるイノベーションがなければ、先進国から最貧国に落ちぶれる危機に瀕しているのが今の日本の国情。それを示すデータがある。

2018年 世界各国年収比較図(左)と各国のここ10年平均賃金推移比較(右)



主要先進国の中で、この10年全く平均賃金が上がっていないのは日本のみ。

韓国にも平均賃金で追い抜かれているとの事実がある。

好景気 好景気と言われながら、全く実感はなく、なにか国際競争力維持のためと思込まされてきたきらいがある。

2018年の年収データ図では、日本は発展途上国も含め世界的にみると給料の高い国ですが、先進国の中では給料の少ない国だと言える。

この図ではまだ韓国の平均賃金より日本が少し上回っている図になっていますが、平均賃金ではすでに韓国以下。2019年における日本人の平均賃金(年収)は3万8617ドル、米国は6万5836ドル、ドイツは5万3638ドルと大きな差。

それだけではない。かつては途上国というイメージの強かった韓国ですら、4万2285ドルとすでに日本を追い抜いている。日本人の賃金は米国の6割程度しかなく、韓国よりも低いというのが偽らざる現実である。

大阪の難波周辺を歩くアジアの観光客の群れを見て、日本の方が富んでるとはとても思えず、不思議がっていたのですが、これが今の現実。

またこの10年の平均賃金推移をみると先進主要国の中で、唯一日本だけが全く平均賃金が上がっていない。好景気 好景気が持続と言いながら…である。

これも思い当たる節がある。この10年働き方改革等ともてはやしながら、モノづくり投資をせず、非正規雇用の拡大がこの図の裏にあるとみる。

正規労働者の約1/3に迫る勢いで、非正規労働者が増え、このコロナ禍の中で雇い度目の目にあっている。こんな国は日本だけたという現実。

日本は裕福な国というのはもうはるか昔の現実なのだ。

コロナ禍で垣間見える疑問がこの数字に端的に表れている。

もうかつての富んだ国は幻想。韓国にも抜かれている現実。

コロナ禍の経済立て直しと掛け声ばかりの日本。

現実新しい成長産業を自らの手で編み出さないとますます日本は最貧国に落ちぶれる危機にある。

TVやマスコミがあおる裕福な国でない。

国民みんなが考えること行動することを忘れ、頂点同調に追従してきた結果がこれである。

「まさにぬるま湯 日本」である。若者型の新しいリーダーが必要な理由もここにある。

お題目を並べ、ねばならぬ・べきである論を振りかざしてもどうにもならない。

きちりとした組立てと着実な実践履行を進める指導者が出ない限り、ますます世界と日本の差は広がるだろう。

世界はしっかりとした未来のロードマップをえがき、その中に達成チェックの数値目標マイルストーンを置いて、推進を図ってきた。どんぶり勘定 頂点同調の日本が一番苦手なことである。

このコロナ禍の中で、経済がメチャメチャな今こそ、日本再生するチャンス。  
低炭素社会到達・カーボンニュートラルの達成はそんな日本再生の取組ととらえたい。

モノづくり企業やその周辺ではすでに、その存続の危機感とともにそれを感じ動き始めた。  
でも 日本を中心たる政治家・政治 それを取り巻く官僚機構にはその覇気が見えない。  
いくら大きな声で宣言・べき論を打っても世界には響かない。  
きっちりとした立案 そしてロードマップを持て自ら実践成果に裏付けられた推進が図られなければ絵にかいた餅。  
2050年カーボンニュートラル宣言と政府脱炭素社会を目指す 14重点項目策定だけが  
お題目として民間任せではそれこそ絵に描いた餅。

それにはなんとしても若い発想を持ったニューリーダーの指導性が必要ではないだろうか・・・  
高度成長期 多くのリーダーが「やってみなはれ みたり 聞いたり ためしたり」と  
若いリーダーを育て、技術イノベーションの連鎖により、  
モノづくり革命が進行して日本の繁栄がもたらされたように。  
いまこそ 頂点同調・ぬるま湯日本からの脱皮が必要か・・・ 頑張れ日本。  
2021.3月 コロナ禍後の経済再生・脱炭素社会の構築に向けて

2021.3.10. Mutsu Nakanishi

■ 参考【From Kobe 2月】

「2050年カーボンニュートラル 政府脱炭素社会を目指す 14重点項目策定」2021.2.5.

<https://www.infokkna.com/ironroad/2021htm/iron17/R0302carbonnewtral.pdf>



カと力がぶつかりあう 声は出せぬが、こぶしをカいっぱい握りしめ 2021.2.28.  
コロナ禍が始まって一年余りやっと終息の兆し みんながよく頑張った証 でももう少し がんばらねば・・・  
でも 青い空にキラキラ光る海 山は芽吹いて 梅の香り 丘一面を黄色に染める菜の花の運動公園では開幕を告げる  
ラグビー子供たちや歓声が風に乗って聞こえてくる  
不漁と言われた今年のいかなご新子漁も無事始まって西神戸に春  
浮かれてはられないが、西神戸にうれしい春の到来

マスクをはずして おいしい空気を胸一杯 戸外へとびだした〜い でも もう少し  
もうお雛さん済んで、梅・菜の花からサクラへ 気は焦れども頭回らず 遅れに遅れた春便りです  
コロナ終息 新しい時代への希望・期待  
みんな笑顔がとりもどせますよう 今一度スクラム組んで

God be with You !! 2021.3.10. From Kobe Mutsu Nakanishi

コロナ禍の中で露呈した硬直化した日本が見えてきた これてよいのか?

自分で考え行動することを放棄した島国日本の村社会にみえる  
頂点同調を振りかざすリーダーとそれに同調するインターネット・  
マスコミそして若者たち。私だけが感じているのかと思っていたら、  
仲間からもそんなことを聞く機会が ふえました。



もう頭も回らなくなり、なかなかまとめる今期も続かずだし、ぶつぶついうのも何の助けにならず。  
最近の新聞やニュースから 気にかかった記事を拾い、掲載することでお許しを。  
でも好奇心は健在 手足は動かし仲間もいる 元気出して出して前向いて  
God Be with You!! とわか道を行く 2021.弥生3月 Mutsu Nakanishi

◆ 保坂正康氏「消えてしまった風刺の精神」神戸新聞2021.3.2. 弥生の随想より

# 弥生の随想

## 文化

日本社会から風刺や抵抗の精神が失われてきたのではないかと。風刺や抵抗を何も批判という意味で用いるのではない。現実のゆがんだ姿を一步引いて客観的に見るのである。風刺や抵抗は一般の清潔剤になるとも言えようか。

もともと日本人は風刺の精神にあふれていた。「いろはかるた」は江戸物にしても、上方物にしても庶民の側からの風刺と抵抗の内容である。

「ぬかにくぎ」「早土の好きな赤烏帽子」「論より証拠」などは、現実を巧みに皮肉っている。こうしたかるたは、子供の遊びにも取り入れられて、風刺の意味をかきとっていったように思う。「泣く子と地頭には勝てぬ」といったことわざも含め、風刺は生きる知恵にもなったのである。

江戸時代の川柳には「役人の子はにぎにぎをよく覚え」がある。にぎにぎは、賄賂をもちつことを指すのだが、幼年期からその準備をしているという意味だ。「やぶ医者の子は遠方より来る」というのもある。人の評判は遠くまで及んでいないから、真実はなかなか伝わらないという皮肉になるか。川柳はまさに庶民の憂き晴らしでもあったというところであろう。

### 消えてしまった風刺の精神

保坂正康



ほさか・まさやす 1933年札幌市生まれ。編纂者を経て作家。『昭和史を語り継ぐ会』を主宰し、延べ4十人の肉筆を記録。2004年に『連の昭和史研究』勸学堂出版。『歴の日本近現代史』を編纂。敬愛。



絵・王塔

友は遠方より来る」というのもある。人の評判は遠くまで及んでいないから、真実はなかなか伝わらないという皮肉になるか。川柳はまさに庶民の憂き晴らしでもあったというところであろう。

像が、的確に描かれている。例えば「官員唱」というのはやり唄には「攘夷攘夷と騒いで置いて、今ぢや異人と雑魚寝する」「髻をはやして官員ならば、猫や鼠は皆官員」と変わり身の早さや新政府の役人が威張ることへの皮肉を歌っている(岩波文庫の倉田喜弘編『近代はやり唄集』)。「書生節」というのもあるが「書生書生と軽蔑するなフランスナポレオンも元書生」という歌詞である。

こうした史実を俯瞰してみると、日本人は役人を皮肉ったり、要領の良い生き方に鋭い反感を持ちたりしていることがわかってくる。野にあって社会の変化や人間の処世を的確に見ている人たちの風刺の精神は、きわめてレベルが高かったと言えるのではないだろうか。つまりそれぞれの時代で、日本社会には風刺の精神が健全に働いていたことになるのではないかと、私は思える。

それなのに、といふべきだろうが、この何年かこうした風刺の精神が泡沫のように消えてしまった。この精神がどの分野でも衰弱してしまっただ。政治家、官僚が現在ほどルールを踏み外している時代はないと思うのに、風刺、抵抗の言論は消えてしまった。自戒を含めての言になるが「どうした日本人! 先達に恥ずかしいぞ」と私もつぶやいているのである。(ノンフィクション作家)

2021.3.2.神戸新聞朝刊 文化面  
「弥生の随想」より  
保坂正康氏「消えてしまった風刺の精神」

# 識者評論 森氏発言から見える課題

日本オリンピック委員会理事 山口 香氏



## 闊達な議論、問答ためらうな

例えば、日本の会議は本当に機能しているのだろうか。

んだ後は、組織の流れにのみ

会が学ぶべき点だろう。

声がある。柔道の創始者である

「話が長い」「わかまえていない問題が起ると」「なぜ、誰

も気が付かなかったのか」と

ない。議論はボールを打ち合

一つを「問答」としている。

徴されるように、会議であるにもかかわらず、出席者は自由闊達な議論そのものを否定

んだ結果に違いない。

はより精度の高い返球が来て

の成長につながる。偉くなって裸の王様になりがちなのは、「なぜ」と問われなくな

まう。

全豪オープンテニスでの大坂なおみさんの優勝スピーチは、決勝を戦った選手をたた

議論は嫌いだが、邪魔されずに話すのが好きな人は多

るからだ。不評だった森さんの謝罪会見にも、問答がなかった。

私は、特に提案に異を唱えるときは一瞬迷う。多くの人も、疑問を感じたとしてもあ

は、競い合うことは敵ではなく

く話している時に失言があった。

組織委の橋本聖子会長は日本

えて質問する必要があるのかと手を引つ込めた経験はない

というところ。競い合う相手がいるから、自分が成長できる。

「笑いもあり、上々だった」と良い話をしてやったぐ

らいに感じている。

やまくち・かおり 1964年東京都生まれ。筑波大大学院修了。柔道女子の元世界王者。2011年からJOC理事。18年筑波大教授。

これからは、長くありがた

いお話が終わったら質疑応答の時間を必ず設けるのが良いかもしれない。「気が付いた

